

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500189		
法人名	社会福祉法人花巻東雲会		
事業所名	グループホームだんけ胡四王(A棟)		
所在地	岩手県花巻市胡四王一丁目15番地5		
自己評価作成日	平成28年10月15日	評価結果市町村受理日	平成29年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_ki_hon=true&amp;Ji_gyosyoCd=0390500189-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_ki_hon=true&amp;Ji_gyosyoCd=0390500189-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年11月17日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立地条件の良さを生かす:新花巻駅前であり、近くには市の重要文化財である熊谷家、宮沢賢治記念館、博物館があり、外出先となっている。 ・地域との関係:毎週地域の方が6~8人来所し、歌を歌ったり折り紙を行い交流している。又、近くの保育園児との交流もあり運動会などに参加している。 ・医療との連携:近くの開業医の協力を得て、看取りを行っている。
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新幹線新花巻駅西口から真西に500mほど、農家と新築住宅が混在する開発途上の閑静な地域に立地している。隣接して市指定重要文化財の古民家があり、時々開催される民族芸能の神楽、正月に廻ってくる権現様の見学等地域に伝わる古き良き時代の催しものに親しむことができる。やや離れて市の博物館、賢治記念館、童話村、胡四王神社などがあり、ドライブをしながら見学に出かけることもある。その他の特徴を上げると①看取りについて近くの協力医との良好な関係から看護師が行える範囲での医療行為を伴う介護は可能としていて、開設以来7~8名の方の看取りを行った経験を持っていること。②夜勤専門の職員が5名おり、勤務を組むシフトが容易であること。③開設以来、近隣の女性数人が毎週金曜日に来訪し、「金ママ」と称して、歌や折り紙などを(利用者と一緒に)行き、また、自分達の憩いの場として活用いただいていること。④職員間の融和がとれていて自由に建設的発言ができる雰囲気があり、介護の質の向上に役立っている。などが挙げられる。
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員用掲示板に掲示し、仕事前に職員で唱和している。	人生の先輩として利用者的人格への尊厳、優しい対応を基本とした理念をA棟B棟合同で引き継ぎ時等に唱和し、内容を確認し合いながら、日々の介護に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くにある熊谷家・保育園の行事に参加している。地域の高齢者に交流の場を設け利用している。	近隣の女性数名が、毎週金曜日に来所され「金ママ」と称して利用者と一緒に歌や折り紙などして、和やかなひと時を過ごしている。また、近くの保育園の運動会の見学に出かけたり、矢沢中の生徒が窓ふきボランティアに来たりして交流するなどの機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎週金曜日地域の高齢者が当施設集まり、歌ったり、お茶したりの交流ばかりではなく、おやつ作りを近くの人が指導し、一緒に作った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の割合で、運営推進会議を開催し、意見・要望等事業所運営に反映している。	会議では、まず事業所側から事業所内の利用者の生活の様子、ヒヤリハット報告の後、委員から様々な意見が出される。夏に、西側の居室の高温化を防ぐための方法として、ヨシズを設置してはいかがか、の提案で改善できた例がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時、包括支援センターの職員と意見交換している。市開催セミナー等に参加し関係を築いている。	運営推進会議の委員として、地域包括支援センター職員が入っていて、時々福祉に関する情報の提供を頂いている。市主催のセミナーに代表職員が参加し、その内容を全職員に伝達するようにしている。グループホーム協会の場合も同様である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止宣言を掲示板に掲示し、日々介護に努めている。	「身体拘束廃止宣言」を職員用掲示板に掲示し、拘束ゼロの介護を目指している。また、諸会議でも話題にし、拘束による逆効果について認識し、確認し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング(毎日)、職員会議(週1回)で、言動について虐待等にならない様に喚起している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護について、研修に参加し職場に於いて、勉強会、ミーティングで説明し、利用者の権利を守るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時契約書に基づき、利用者家族に説明し理解を得、署名して貰っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時運営規定に基づき説明している。同時に利用者、家族の要望を取り入れるようにしている。運営推進会議に利用者、家族代表が入っているので反映できる。	利用料の支払いのための来訪時や家族会での面談などの際に要望など聞くようにし、すぐできるものはすぐ実施に移し、時間の要するものはケアプランの作成時に、または、運営推進会議に諮り、実施に移すようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議で話し合いを行っている。運営に関して意見が反映できるようにしている。	月1回の職員会議や勉強会で、自由に発言できる雰囲気があり、ケアプランの見直し時や、新しい入居者があつた時は、すべての職員の意見が出せる機会を持つように工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状態に気を配り、就業規則、給与規則の見直しを行い、職員の働く意欲が向上するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が研修を受けれるように色々に分かれて参加させている。パートでも施設内で勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症高齢者グループホーム協会に参加し情報の収集、交流に努めている。また他施設間の研修も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時家族、本人から話を伺い、要望・不安等に丁寧に耳を傾け、説明し理解を頂くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時家族と面談し、良い関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時アセスメント～ご本人の希望と必要性等により、サービス内容を検討し支援するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・行事食作り・誕生会・野菜の下ごしらえ、折り紙、絵手紙等作業を一緒にし、楽しみの時間作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に、都度の変化時や、情報等により、家族、ご本人に説明、意見調整しながら、介護計画に反映できるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事・祭り・地位の運動会等への参加や外出に支援しています。友人が何人かで訪問されたりする場合があります。参加に場所の提供をする。	隣接する古民家での神楽、正月に巡回してくる権現様の見学、近くの矢沢保育園の運動会の見学、「金ママ」とのレクリエーション交流、お雛様展示での交流など、様々な面で地域の方々と接する機会を持つようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでのテーブル設定や、知り合い間の会話、散歩同行等、関係を深められるように配慮しサービス提供に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居者への訪問や、家族からの情報等にも継続し関わりに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人の意向を聞いて、把握に努め、職員・家族と情報共有する。できる事については、ケアプラン等に反映するよう努めている。	過去の生活歴や趣味などを把握しているほか、それに家族の意向などを組み入れて、思いを叶えるように配慮している。歌うことが好きな方、ちぎり絵、折り紙に興味を持っている方など様々である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース会議(センター方式)・勉強会等でケア職員間で情報確認、徹底に努め、ご本人の思いに添えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌・個別日誌・申し送りノート等で利用者の情報把握し、情報共有に努めています。1日のケアについては、3人の日勤者で協議し、ケア内容を徹底するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の内容を職員間で共有しながらケアに取り組んでいる。また家族の面会時に本人の様子を伝え、要望を聞いている。	日々の生活の状況を細かく観察し、担当者を交えた職員会議等で検討・集約し、家族の意見・要望を加味しながら適切なケアプランを作成するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を毎日の業務日誌・ケア日誌・申し送りに記録し職員間で情報共有、実行している。改めの方が良いものは、話し合い、見直し、実践につなげる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の家族の要望や、行事、季節に合わせ、地域性に合わせ、要望に応えるようにしている。家族の急な都合で、受診介助にも対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として、賢治記念館、童話村・保育園等があります。地域の行事に開放し、交流できるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族対応が困難になってきている現状です。出来るだけ本人、家族の要望に応えるよう努めています。	訪問診療、訪問看護等を依頼しておらず、近隣の医院へ出かけての受診になっている。その病院は総合花巻病院、高木が丘クリニック、花北病院等様々で、家族による受診介助の困難な方が多くなっている。その場合は、事業所に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者の変化に、看護師・ケアマネ・介護職員と細やかな情報共有し、早めの対応に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーの提出、入手で、早期に、適切な対応ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化と思われる時点で家族と話し合い、今後について決めている。終末期については入居時に説明し、その後段階に合わせて意志を確認している。その上で協力医院と連携を取っている。	利用開始時に高度な医療行為を伴う介護は出来ない旨説明し、看護師ができる範囲の医療行為を伴う介護は行える旨、説明している。開設以来、協力医のもと、7～8名の看取りを行ってきている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故については勉強会を行い、職員の知識を深めている。対応、連絡についてはマニュアルを参考にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を、利用者・全職員で行っている。管理権限者・防火管理者・消防士を交え年1回訓練を行っている。食糧、必需品(オムツ)を補給する。	年2回実施し、うち1回は地域の消防団員、消防署員立ち合いのもと、通報訓練を含めて実施している。夜間の災害を想定した避難訓練を2ユニット合同で昼過ぎに行っている。	豪雨災害などは想定されない地域と思われるが、その他の災害を想定して地域住民の協力体制を整え、通報訓練を含めた避難訓練を年1回は薄暮時に行われることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人1人の人格を尊重し、年長者として扱い、それを態度や声掛けに反映し、プライバシーに配慮する様常に心がけている。	利用者一人ひとりを人生の先輩として、尊敬の念を持ちながら対応するという気持ちを、職員全員で確認しながらケアにあたっている。普段の会話での言葉遣い等にも気配りされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本人の思い、希望を察知しその情報を職員間で共有している。穏やかな雰囲気にも満たしているので、自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切にするために、個々にあった支援について話し合い、理解、認識を深め対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ、おしゃれには気を配り、散髪は(3月に1回)に行い、外出、季節に適したおしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の収穫から、野菜の刻み、味付け、おやつ作り、配膳等、各自の好みや、能力に合わせて作業を行っている。	自家菜園から収穫されたトマト、ピーマン、オクラなどの食材のことを話題にするなどして、楽しい食事時間になるよう工夫している。近所から頂いた柿を、みんなで皮むきをして窓辺につるして眺め、一緒に食べることを楽しみにしている様子が見られる。敬老会や花見会の屋外食、希望により近隣のレストランで外食するなど、食事は多様な形態で提供され、利用者にとって楽しみのひとつとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給を十分にする為、一人一人の好みによって、飲み物の種類を変えたり、嚥下の状態によりトロミをつけたりしている。また毎月食事量(間食の量)、献立の中身を個別に変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの実践を歯科医の指導で行っている。自分でできる利用者は声掛けを行い、利用者によって、介助を要する人には、歯や舌の状態を見ながら介助をし、記録を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的トイレ誘導やサインを見逃さないように、排せつの記録を読み援助している。	排泄チェック表などによりパターンを把握し、それとない誘導により、失敗による羞恥心の排除に努めている。結果としてオムツ等の使用減につながるよう努め効果を上げている。トイレは清潔で、車イス利用者にも十分なスペースで整備され、利用しやすい構造となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘について勉強会をしている。水分補給、運動、食事の工夫、排便の記録を毎日行い、必要時下剤、摘便を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人1人の希望を聞いている。脱衣所との温度差を最小限にし、体調に注意している。プライバシーを重視し可能な限り最小の介助としている。	週3回程の入浴回数で、バイタルチェックや体調観察により、足浴や清拭に替えることもある。入浴拒否の傾向のある方については、上手な誘導等の工夫により、入浴の楽しみを味わえるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活リズムを作り、心身の安定を図り、良眠できる様に援助している。 活動(散歩・歌・体操等)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の管理を行い、1回毎に渡し、内服を確認している。一人一人の薬の効果、副作用、用量等一覧にし、貼りだしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時生活歴を詳しく聞き、申し送りし、一人一人が何をしたいのか、できるか理解し喜んで生活できるように取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は、職員が連れ添いながら数人のグループで散歩に出かけるようにしている。帰宅要求の希望には2-3回散歩している。	見晴らしの良い事業所周辺の散策は、日常的に行われ、足腰の筋力低下防止と外気に触れることにより、気分転換が図られるよう支援をしている。利用者の希望により、近くの軽食喫茶店「きゃびん」に出かけ、楽しめるように対応しながら支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の意向を聞きながら、お小遣いの使い方について支援をしている。利用者は直接お金の管理はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と連絡を取りたい方については、電話をかけてあげたり、本人からの伝言を伝えたり、手紙を出したり、本人の意向に沿った支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間のリビング「の音・光・色・広さ・温度等に気をつかい、テーブル配置を考え、大人数も、少人数で楽に過ごせる工夫をしている。	事業所全体が木造で、木のぬくもりが感じられるように設計され、明るさ、色調とも適度で落ち着いた雰囲気の中で、ゆったりとした時間を過ごせるようになっている。厳冬期には、リビングの隅に置かれた薪ストーブの炎が安らぎを感じられるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置、椅子の並べ方等を工夫して、独りでも、友達同士でも好きなように過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物品や、好みの物などもわかり易い表示を取り入れ、手摺、摺り等に工夫し配置し生活への配慮がされている。	各居室には押入れが設置されていて、衣類などが収納され、部屋は整然としている。テレビを持ち込んでいる方、家族写真や小物などを飾っている方など様々である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の名札、トイレの場所等、わかり易い表示を取り入れ、手摺・摺り棒等工夫して設置し生活への配慮がされている。		